（別紙4）　平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500297
法人名	社会福祉法人　百徳会
事業所名	グループホーム　佐伯の太陽
所在地	大分県佐伯市駅前1丁目1番11号
自己評価作成日	平成30年03月15日　評価結果市町村受理日　平成30年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4490500297-00&PrefCd=44&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212　チュリス古国府壱番館1F
訪問調査日	平成30年　3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は施設の4階にあり日当りや風通しは抜群で窓からは四季折々の山や木々の彩りの変化や近隣の様子が一望できる。 JR駅や郵便局、スーパー、ドラッグストア等の公共機関や商業店舗が立ち並ぶ生活の便に恵まれた環境にある。入所者の最高齢者は105歳へ、百歳以上の方が4名入居する高年齢層のホームであるが利用者と職員は得意分野を互いに発揮しながら喜怒哀楽を分ち合い、支えあいながら共同生活を送っている。施設の1階にあるクリニックと訪問看護ステーションや母体の佐伯中央病院からの24時間365日の途切れのない医療連携と支援が得られる体制で18名の利用者が安心してその人らしく暮らし続けられる方法を職員は毎日創意工夫しながら取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事時のくつろげる空間でも利用者の状況を観察し、動き・嗜好・ペース・飲込み・食事量等に支援がなされるなど、職員の心づくしが見受けられます。各種の研修機会に参加し、職員のスキルアップをめざし、プロ的意識が共有されています。母体の法人が医療機関であり、看取りケアなど介護・医療連携が強固に結ばれている施設となっています。

V．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの理念を作り日頃の業務の中に理念を意識し利用者に向き合い、質の高い介護サービスを提供するために日々の自身の言動を見つめ直し実践へとつなげている。	法人全体の理念から職員で話し合い、グループホーム用に特化した理念をつくられ、研修等も積極的に参加し、理念についての考えを全員で共有し、日々の支援に取り組みがなされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育所、小学校の園児、児童、ボランティアとの交流が定期的にあり、中高生の職場体験や介護実習生の受け入れを積極的に行っている。	近隣や地区の人が施設で行う行事やイベントに参加して頂き、交流がなされています。地域で取れた新鮮な魚介類や野菜等の差し入れもあり、交流がなされています。	重度化に伴い、利用者の動き・行動を控えるようになっており、外出の機会が少ない状況が伺えます。アセスメントに力を入れ、本人が楽しめる外出支援を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護実習生を積極的に受け入れ、ホームの共同生活の流れの中で認知症の利用者が発揮する力や認知症状を穏やかにする関わり、支援方法を認知症理解の一環として専門性を持って伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催している運営推進会議で期間中の利用者の状況や事業所の取り組み等を報告している。委員さんからの意見や感想からホームの運営や取り組みに理解をして頂けていると思う。今後もサービスの向上に努めていきたい。	定期的に行われ、一方的な報告でなく、地域の事、施設や利用者への対応など双方向な意見の交換がなされ、その内容等について、職員間で共有されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中でGHの現状と待機者数、活動等を報告している。ホームの運営へのアドバイスや佐伯市の福祉サービスの現状等の情報提供や相談、協力の体制は整ってきている。	制度変更や利用者負担に関わる経済的課題・支援困難事例等の協議を行い、更新時には、利用者の暮らしぶり・ニーズ等について報告がなされ、課題解決に取り組みがされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し身体拘束について学び、実践に活かしている。 外出の希望があれば柔軟に対応し危険認識の低下した利用者についても拘束をしないケアを工夫し取り組んでいる。	リスクマネジメント・ヒヤリハット等活用し、法人内外において、年1回以上拘束に関する研修に取り組まれ、施設内は施錠やセンサーなど身体拘束に繋がる部分は解放され、外出気配を察したら、さりげない声掛けなど取り組みがされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会に積極的に参加している。又、介護施設で発生した事件や事故の報道や新聞等の情報誌は全員で目を通し日々のケアや支援の中での自身の言動を再度振り返り意見交換をし介護の姿勢を見つめ直す機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加している。制度について知識を深め、必要な時に支援できる体制を整えていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には運営規定や重要事項の説明を必ず行っている。契約時に限らず、契約後も利用者や家族が不安や疑問等を十分に表せるようにこちらから尋ね働きかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には近況の報告と併せ行事やイベントのご案内をしている。意見箱の設置場所や苦情等の受付機関や方法についてもお知らせしている。	意見箱は設置してもなかなか意見が入りませんが、いつでも意見・苦情が伝えられる体制整備がなされており、事業所のみでなく、市役所・地域包括支援センター・国保連等へ相談に家族等が出向かれるシステムも常時伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や業務中にも意見、提案が多く出される。 大小のミーティングであげられる意見や提案が職員間で合意され日常のケアや業務に反映されるように努めている。	支援の中で感じた事を申し送りやミーティング等で意見を出せる環境作りに取り組まれ、要望・気づきを報告し、その内容について対応がなされ、運営方針・利用者の受入などの協議に取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう個々の目標を掲げている。目標を達成するために具体的な実践項目を明記し、期間中の努力の度合いがわかる様自己評価の様式を取り入れている。職場環境条件の整備等も面談の中で聴取される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職後の職員の能力や資質、適正を評価するシステムがあります。幅広い知識と技術の研鑽を理念にも謳い研修に積極的に参加できるよう年間の研修予定を組み法人内外の研修も手配している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では定期的に人事交流が実施され、相互間の活動への理解やサービス向上に向けてネットワークの構築や支援体制への成果が上がっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向を含め生活歴や導入直前の生活の様子を入念に把握し混乱することが少なくなるようスタッフ全員で受け入れ体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅介護時や入院中、他施設入所中等の家族の思い（苦労話等）を聞き、家族がホームに求めていることを聞き取りながら事業所としてどんなことができるか等を伝え初期の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現況の改善に向けたサービスの提案を本人家族の意向を聞き取りながら行っている。他のサービスとの比較をしながら、その後の状態変化に伴う必要な支援や他のサービス利用の判断や選択についての見極めも説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	″持ちつ持たれつ〃という気持ちでお互いに感謝しあいながら過ごしている。茶碗洗いや洗濯物たたみ等、利用者には得意分野で力を発揮してもらい、職員が利用者から励ましてもらったりする場面が毎日の生活の中にある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子をお伝えしていく中に家族の思いと重なる部分や、共感できる関係性が築けている。 今後も暮らしを支える方法を一緒に考え自然な協力関係を保っていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族構成や地域での人間関係や社会関係の把握に努めている。外出を兼ねて定期的な周辺散策や縁のある友人、知人の方にも面会に訪れてもらえる様に家族にお願いし関係性が途切れない支援に努めている。	本人の生い立ち・生活環境・人間関係を把握し、利用者が安心できる支援・対応に取り組まれ、馴染みの人、希望する人への連絡体制が構築されています。家族や馴染みの人の面会など外出支援にも対応がなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性について情報連携し利用者同士の関係がうまくいくように職員は調整役になり共同生活が円滑になるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方にもイベントのご案内をしたり他の事業所へ移られた方にも手紙や広報誌を郵送し近況をお伝えする等、利用中に培った関係性が継続していく支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや希望がたとえ現実味を帯びておらず実現の困難なことでも職員の視点で否定したり決めつけずに利用者本人本位の視点に立ち寄り添える支援に努めている。	本人が伝えづらい事、思い、希望、満足度等を表情や動きの中で察したり、家族・知人から情報を取り入れ、本人の意向に添った支援の取り組みがなされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人の個性、価値観を把握するために利用者の生活歴や暮らし方について情報を収集することは人の過去やプライバシーに立ち入ることでもあるので配慮を以ってそのかたのケアに活かすという目的を忘れずに把握に努め支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムを把握し月数を経た心身の状態の変化に伴う能力の低下や日内の変化を察知し発揮する力の変化にも留意し日々の申し送りで職員間で共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	"暮らしぶりがより改善する〟という事を課題にし本人、家族、関係者の意見やアイデアを計画の中に反映させるようにしている。現状の把握(アセスメント)とモニタリング(評価)は担当のコメントも手掛かりとなっている。	本人・家族・知人・関係者等で話合い、意見・要望を反映した、計画づくりや本人主体の個別支援計画が策定され、本人に一番近いポジションの職員の意見が反映出来るよう参加体制が構築されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット全員の一日の様子が一枚の紙面で把握できる様式のものと利用者個々についての日々の様子やケアの実践等は個別の記録にも残している。申し送りノートを活用し気づきや工夫、連絡事項の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し個々の満足を高めるよう努力している。利用者の家族に健康体操の取り組みを知らせ日時を案内し参加を募っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にこぐま号（移動図書館）や訪問理美容サービスを利用している。 今後も趣味や整容への支援に留まらず豊かに暮らしを楽しめるよう地域資源との接点を見出していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を選択して頂き受診の介助を行っている。他科受診についても必要な手配（診療情報提供書や福祉タクシーの予約等）を行い適切な医療が受けられる様支援している。	本人、家族が希望するかかりつけ医となっています。定期的に受診し、家族の協力を得ながら適切な医療を受けられるよう24時間迅速に対応できる体制を整えています。変化が見られた時はその都度家族に電話で連絡し、情報の共有に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、又は必要時に訪問看護ステーションより看護師の訪問があり、入所者の健康管理や体調不良時の適切な指示、対応等を24時間に渡り訪問看護ステーションからの連携が得られる環境で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換や退院時期の相談、手続きが円滑、迅速に執り行えるシステムが確立されている。できるだけ早期に退院しホームでの生活に復帰できるように病院関係者との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合の事業所として対応可能な支援や終末期の意向を確認しその時点での意志確認書を頂いている。その後の状態の変化に伴って家族の意思確認はその都度行い意向をやケアの方向性についても関係者、チームで共有し支援に取り組んでいる。	医師、家族、施設の連携を密にとり、医師の指示のもとその都度話し合いを持ちながら適切な支援に取り組まれています。看取りの経験を通し職員間でよく話し合い、共通意識をもってこれからの支援に繋げていく体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時、事故発生時等に迅速かつ適切な対応ができるよう日頃から状態把握に努め、定期的に初期対応の訓練を行ったり急変時の応援の体制も整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地震、火事、津波を想定した避難訓練を実施している。 避難要項に沿って避難方法、経路、身を護る対策、発生後に必要になる物品の確保についてもシミュレーションし体制を整えている。	年に2回、様々な場面を想定した避難訓練に取り組まれています。消防署や、企業に協力してもらい総評をいただきながら次の訓練に取り入れたり、実際の地震の経験から、より安全面に配慮された取り組みや訓練の見直しなどに繋げ、訓練に生かされています。	地域の方が参加された訓練が、少しでも早く実現されることを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の支援の中に誰が聞いても違和感の無い言葉かけや対応、さりげない配慮ができるよう今回も自己評価の機会をかりて再度確認し合った。人生の大先輩に向き合うに値する対応を心掛け職員全員が真摯に取り組んでいきたい。	定期的に研修も行われ、常にプライバシーに配慮された対応を心がけています。職員間で、気付いたことはその場で確認しあえる、環境づくりに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	年齢が高くなり認知症が進むにつれ意思表示が困難になった利用者も増えている。自己決定の場面では分かり易い言葉やジェスチャーを交えながら伝え強要せずに汲みとる姿勢で臨んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活の流れはあります。その中でも利用者個々の生活パターンを把握し、思いや希望に添えるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分が着る洋服を自分で選ぶことができる方にはそのかたの表現のひとつとして見守っています。衣類を選択したり、身仕度を整えることが困難なかたには職員が色や柄を考えて本人の気持ちに添える支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつタイムや誕生日会等にはチラシ寿司や焼きそば、たこ焼き、お好み焼き等のクッキングをすることがありますが、今のところ施設提供食です。その日の体調や気分にまかせて利用者が洗い物やテーブル拭きをしてくれている。	食事に関しての希望や意見を細かく把握し、日々の食事に反映させています。イベント食やおやつなど、利用者と一緒に食事を楽しみながら取り組めるよう、工夫され支援に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食ごとに水分も一日の水分量を管理している。摂取量が少ない時には代用品を用いて栄養確保に努めている。食事形態や嗜好も把握しながら安定した食生活の継続を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々の力に応じて促したり介入しています。セルフケアのできるかたも一日の終わりには職員が介入し磨き直しをしている。ポリデントやケア用品の消毒も定期的に実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、汚染を減らすため個々の適時の効率の良い排泄誘導を心掛けている。万一、失敗していてもプライバシーを重んじた交換更衣に配慮している。	排泄ﾁｪｯｸ表は、職員全員で周知できる体制が整えられ処遇に生かされています。自立支援を大切に、重度化が進む中個々に添った支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防には水分摂取にも配慮し水分摂取量を把握するための記録を残している。10時と15時（おやつ）、19時にもお茶や好きな飲み物等を提供し食事時だけでは摂れない水分を補っている。ティ―タイムの砂糖にはオリゴ糖を用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大体の入浴予定日はあるが変更も柔軟に対応。先ず、声掛けをし入浴の意向を確認している。湯船の中では家族の事、若い時分の事、旅の話等珍話が聞ける事もあり、本音や本人らしさが垣間見れリラックスできる入浴の工夫に努めている。	入浴を楽しんでもらえるよう、利用者の希望を取り入れるだけでなく、その時々の会話などｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを大切に、体調だけでなく気持ちよく入浴を楽しんでもらえるよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態やその日の体調、生活パターンに応じて、日中に必要な休息をとって頂いている。夜間はできるだけ良眠して頂ける様、巡視時に室温、湿度、照明、寝具の調整等にも配慮して対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等で聞き慣れない薬が処方された時は薬状書や薬効の資料を参考にしながら効能や副作用についても全員で把握に努めている。内服後の変化についても申し送りで伝達し、誤薬を防止する複数回の確認チェックを励行している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ツワブキの皮をむいてもらい調理したり、柿の実を干し柿にする作業を手伝ってもらったり季節感を感じながら張り合いや喜び、楽しみにつながる事が生活の場面に多くある様、洗濯物たたみやおしぼり巻等を頼み、感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、お花見、自宅周辺散策等を気候や天気の良い日を選びながら定期的に支援している。気分転換やストレス発散に効果的な外出の支援になる様、希望やコンディションに応じて実施している。仲町商店街に久しぶりに行ってみたいという声が多くある。検討中である。	その日の気分や体調を考慮されながら、日常での外出支援だけでなく、計画してのドライブや馴染みの場所への外出、さらに他の人々との交流もかねて、一緒に外出する機会をもうけ支援に取り組まれています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が金銭感覚が乏しくなってきており個人管理は難しい状況です。今のところ家族との外出時に同伴でのお買い物をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お誕生日や母の日、父の日の贈り物が届いた際のお礼の電話や年賀状等通信手段を使って関係をつなぐ支援を行っている。携帯電話を持っている人、毎週国際電話がかかる人への対応面での配慮に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂ける様、リビングや機能訓練スペースの壁面を利用して美術作品の製作展示に力を入れている。 壁面アート作品は利用者との合作です。作品や生花等の物質的な効果や環境整備等の面での工夫でも居心地の良い空間作りに配慮している。	壁面アートや利用者の作品、季節を感じる空間づくり等工夫され、温室管理に気を配り安全・安心に居心地よく過ごせるための取り組みがされています。利用者が楽しく過ごせるための取り組みを工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中の集団生活の中に精神面の変化が著しく現れる人にはその人がより落ち着いて過ごせるように空間を上手く利用してくつろげるスペースを設けている。利用者同士の関係性やその日の精神状態にも配慮しながらその都度支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使い慣れたものを居室に準備してもらったり、本人、家族の意向を汲みながら在宅時とあまり大きく変化の無い家具の配置等を工夫し、居心地良く過ごせ、プライバシーや安全が確保できる居室の配慮をしている。	利用者の個性を大切にされた、居室作りに努めています。温室管理等に気を配り、安全・安心に配慮され居心地よく過ごせるための居室づくりに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーとなっており、スタッフルームからリビングや交流スペースが見渡せる設計になっている。安全に配慮しながら個々の能力を活かし自立した生活の維持継続の支援をその都度工夫し行っている。		